

～デジタル活用による世界遺産平泉観光の価値向上～

令和6年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージⅠ】採択課題

課題名：ガイドシステムの周遊ログによる来訪者調査手法の活用に関する研究

研究代表者：ソフトウェア情報学部 阿部昭博

課題提案者：平泉町

研究メンバー：千葉武裕（平泉町）

技術キーワード：デジタル化、広域観光連携、周遊分析、デジタルマーケティング

▼研究の概要（背景・目標）

＜背景＞デジタルデバイス等を活用しながら恒常的に観光客の動態データ収集できる仕組みの導入が課題となっている。

＜目的＞周遊実態の把握を可能とする新ガイドシステムを運用し、周遊ログによるデジタル来訪者調査手法の活用に取り組む。

▼研究の内容（方法・経過）

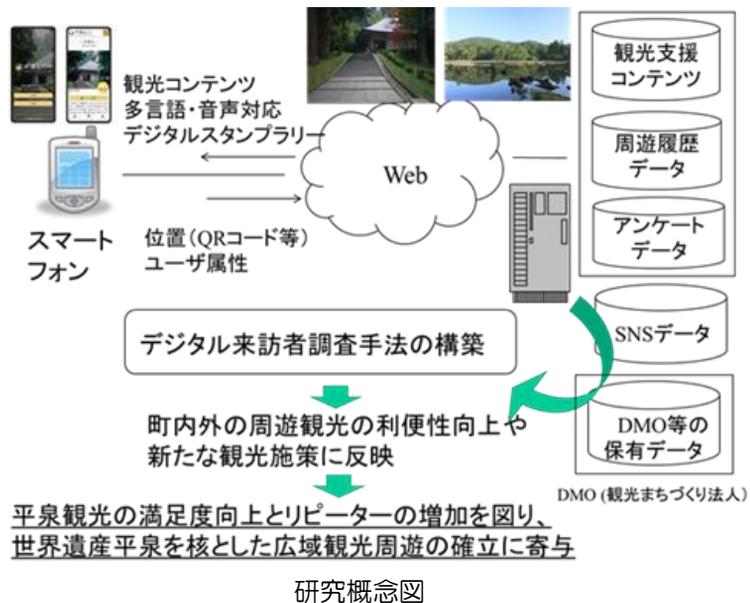
1. アンケート調査機能などガイドシステムの機能拡充を図った。
2. 観光協会の協力のもと、スマートフォンを活用した長期の周遊イベントを実施した。
3. 広域周遊への対応として、他機関が保有する広域周遊データの活用を試みた。
4. 収集データ分析の効率化を図るため、支援ツールを試作した。

▼研究の成果（結論・考察）

1. 来訪者調査手法については、観光振興計画の基本目標指標に対応したデータ収集も可能となり、当初意図した仕組みを構築することができた。
2. 残された課題としては、通年でのデータ収集による効果検証、職員主体によるデータ活用の効率化が挙げられる。

▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 過去3年間の地域協働研究成果を踏まえ、通年でのガイドシステムの運用と来訪者調査手法の活用を役場主体で行い、2024年度に実施できなかった通年での効果検証を進める予定である。
2. 職員主体のデータ活用を支援しながら、早期に持続可能な運営体制への移行を目指す。そして、更なる観光DX推進に繋げたい。



研究概念図



取り組みの概要